

SSKW 親の会だより増刊号

親の会会報 No.114

平成30年9月発行



Inclusion Setagaya

世田谷区手をつなぐ親の会

Nothing
About Us
Without
Us



これからの親の会の役割

会長 渡部 伸

5月17日に開催されました第62回世田谷区手をつなぐ親の会定期総会におきまして、新会長を拝命しました渡部伸です。みなさまよろしくお願ひいたします。

障害者を取り巻く環境は、ここ15年ほどで大きく変わったと実感しています。そんな中で、私なりに親の会の役割って何だろうと考えてみました。

一つ目は**障害者の権利を守る運動体としての役割**です。さまざまな要望を訴えることで、制度も少しずつ変わっていきます。たとえば精神障害の分野では、各団体が声を上げてきたことにより、東京都ではそれまでマル障の対象外だった精神障害者保健福祉手帳1級所持者が、来年1月から対象となります。私たちの活動においても、要望を続けている移動支援事業について、昨年は通所利用範囲が拡充され、訪問系サービスにおける変更がありました。今年も7月には区への要請の会があり、その後は区議会各派への予算要望も行います。さまざまな場面を活用して、地域で安心して生活できるよう主張していく必要があります。

二つ目は**会員に対する情報提供**があると思います。法制度の変化はめまぐるしいものがあり、今年の春にも自立生活援助や就労定着支援といった新しいサービスも始まりました。先日、会員の方からこのような相談がありました。子どもの障害者控除を遡及して申告したいと申請したところ、障害者控除は手帳の取得日が基準となるので過年度の確定申告の修正申告が必要と言われたとのこと。「障害

児の親の会で聞いた話では…」と知的障害では手帳が無くても申請できるはずと電話で伝え、後日『この障害は先天的なもの』と書き添えた診断書を提出したら、めんどろな修正申告なしで申請できたそうです。このように、行政のほうも制度をよくわかっていないことが実際にあるので、親も情報をしっかり持っていないと損をしてしまいます。

そして三つ目は、**家族や本人たちのつながりの場**としての機能が特に大切だと感じています。私は親の会活動とは別に、全国のさまざまな地域の障害者のご家族とお話する機会があるのですが、ある70代の男性からこのような相談がありました。家には障害のある息子がいるが、先月妻が急死した。子どもことは任せきりだったので、これから何をどうしたらいいのか見当もつかない…ということです。一般的なアドバイスをしたあと、ぜひ地域の家族会に連絡して、いろいろな話を聞いてくださいとお話ししました。数か月後連絡があり、親の会で話が聞けてとてもホッとしたということでした。親子の高齢化に伴ってさまざまな課題が浮き彫りになってきます。そのときに頼りになるのは、同じ境遇の仲間とのつながりだと思います。その場を提供することが親の会の重要な役割かなと考えています。

会の活動をより活発にするために、もっともっと会員を増やしていきたいと考えています。そのためには、入会すると地域のいろいろな情報を知ることができてトクをする、無理のない範囲で楽しく活動できる会だと知ってほしいと思っています。

仲良く楽しく無理をせず! がモットーです。みなさまの変わらぬお力添えをいただけますよう、重ねてよろしくお願ひいたします。